

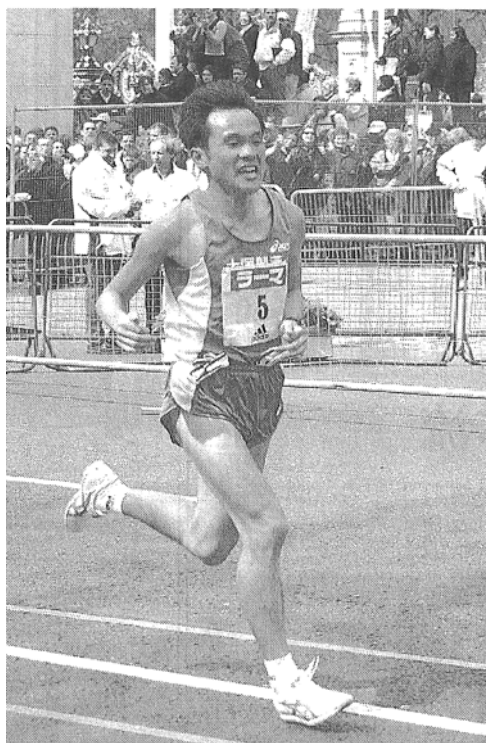
2001 年度

犬伏復活！ロンドン7位

【ロンドン22日共同】ロンドン・マラソンは十二日、当地で行われ、男子の犬伏孝行（犬塚製薬、城ノ内高出）は自己三番目の2時間11分42秒で7位に入った。アブデルハデル・エルム・シス（モロッコ）が2時間7分11秒で二年ぶり二度目の優勝を遂げた。シドニー五輪後初のマラソンに挑んだ犬伏は、20キ付近まで先頭集団で前回チャリオン・ピント（ポルトガル）の後ろにつけていたが徐々に遅れ始めた。25キ付近からは「独り旅」となったが粘り強く走り続けた。好選手がそろった女子はシドニー五輪一万円金メダルのデラルツ・ツル（エストニア）が2時間23分57秒で初優勝し、弘山晴美（資生堂、鳴門高1国士大出）は2時間29分1秒で12位に終わった。昨年の大阪国際女子以来一年三カ月ぶりのレースだった弘山は、15キ付近で脱落。再び追いついて20キ地点では先頭集団に約20秒まで追いついたが、失速した。同五輪マラソン銀のリディア・シモン（ルーマニア）は4位、世界最高を持つ前年優勝のテグラ・ローレベ（ケニア）は8位だった。

ロンドンマラソン

男子 犬伏 復活の7位



犬伏孝行の話 20キ過ぎの急激な揺さぶりについていけなかった。それでも、故障あがりて自己三番目の2時間11分台のタイム。やれる手ごたえは感じた。

まずまずの手ごたえ

○：マラソンは脱水症状で途中棄権したシドニー五輪以来。男子で日本歴代2位（2時間6分57秒）の犬伏は、2時間11分42秒の7位にも「この状態にしてはまずまず。手ごたえはあった」と暗さはなかった。

河野匡監督は「故障はあっても、調整自体はよくできたと思う。今回は高額の賞金レースで、駆け引きの難しさを知ったのではないか」と話した。

Otsuka Track & Field Team
since 1990

徳島新聞 4/19